

エスペラント ★

Verda Placo 2016 somero

みどりのひろば 2016年 夏

N-ro 35

Harima Esperanto-Societo (はりまエスペラント会)



hortensio(紫陽花)

第 64 回関西エスペラント大会に参加して

中村雅子

6月18日(土)～19日(日)堺市泉ヶ丘駅近くのビッグ・アイという立派な国の施設で開催された。「La 64a Kongreso de Esperantistoj en Kansajo」へ行ってきました。

開会式で峰さんに代わり、KLEG 奨学金を受け取ることになっており緊張しましたが、どうにか峰さんの mesaĝo を読み終えることができホッとしました。続いて公開シンポジウムでは、九州大学の岡崎晴輝氏、津山工業高等専門学校のかどや・ひでのり氏、神奈川県立百合丘高校/川崎エスペラント会の北川郁子氏のお三方が、それぞれの専門分野から、エスペラントの役割と可能性について語られました。岡崎氏の話の中で印象に残った言葉は、「相手を自分の土俵に引き込む」ということで、社会運動の例を引き合いに出して話されたので、私にはとても参考になりました。何事においても自分たちの主張をしていればよいというのではなく、相手に理解をしてもらうためには工夫と努力が必要だということでした。

かどや氏は「言語権」という権利を保障する道具としてエスペラントを捉えており、その考えに沿って、今後のエスペラントは変化していくべきだと主張されました。例えば、patro, patrino といったジェンダー(性差別)的表現は やめるべき、など。かなり進歩的な意見に少々とまどいしましたが、エスペラントの普遍的根拠の必要性について考えるきっかけになりました。

北川氏は英語教師でありながら英語偏重教育に疑問を持ち、選択科目としてエスペラントを授業に取り入れた経験を話されました。エスペラントを選択した生徒がエスペランチストになるわけではないけれど、英語が苦手な生徒が語学学習への劣等感を克服できたり、世界の多様な人々や様々な価値感、社会的マイノリティーの存在に気づき、排他性を克服する一助になりうるという話はとても共感できるものでした。またエスペラントの認知度をあげるためには、エスペラント語という呼称も使用してもよいのでは、という提案もあり、なるほどと思いました。

2日目の公開番組、朗読劇「戦時下反戦放送 長谷川テルの生涯と娘暁子」は感動的で、今時代の多くの人に知ってもらいたい内容でした。はりま地域でも上演ができないものか、考えたいです。続く公開講演は早稲田大学の向後千春氏による「ザメンホフの人類主義とアドラーの

共同体感覚」。巷でブームのアドラー心理学について私は全く知りませんでした。アドラーの思想の核心は 人類は「共同体感覚」を持っていないと滅びるといふもので、その感覚を身につけるには意識的な努力が必要とのこと。そして、教育の一番の目的は共同体感覚を育てることだそうです。ザメンホフと同じユダヤ人で同時代に生きてきたアドラーの「共同体感覚」とザメンホフの「人類主義」は一言ではまとめられませんが、確かに共通する思想があると思えました。向後氏の著書も読んでみたいです。

今回の大会で峰さんの mesaño を読んだこともあり、いろんな方々から峰さんの体調について尋ねられました。また、大会記念品の「エスペラント運動を考える」は峰さんの編集によるもので、改めてエスペラント運動における峰さんの存在の大きさを感じました。宿泊では2年前の姫路大会で司会をしてくださった松田洋子さんと同室になり、エスを始めたきっかけなどいろいろお聞きすることが出来ました。エスを始めて数か月の若いアメリカ人女性がちゃんとエスで会話しているのを見て、私も頑張らねば！！と思いました。気持ちだけはあるのですが、いかんせんなかなか時間が・・・。だけど10月の日本大会の時には 今より聞き取りや会話ができるよう頑張ります。今回の大会に参加して、私の中で いろいろな思想が結びついてきています。とても有意義な大会でした。



関西エスペラント大会に参加して。

馬場祝栄

今年のエスペラント大会が堺であるということなので、私はとても楽しみにしていました。Sakai estas tre karmemora urbo por mi. Ĉar Sakai estas . . .

なにしろ堺は私が結婚するまで会社勤めをしていた町であり、それより私が初めてエスペラントの入門講座を受けた所でしたが、開催されて

いたお寺の名前、場所、その時の先生もメンバーもみんな忘れて覚えていません。でもあの時のメンバーが母体となって活躍しているのではと期待していました。実行委員の方にお伺いしたのですが、残念ながらかれこれ、50年も昔の話ですので、その頃をご存じのかたは、おられませんでした。

Antauxkongreso Ekskurso で堺の旧市街を歩いたのは楽しかったです。古い格子戸の町並み、京都によく似た町名、戦災で焼けなかったのが幸いして今日まで残っており、懐かしい気がしました。堺は姫路とおなじ歴史が薫る街です。

一日目はエスperantoの会話教室に参加しました。田平正子さんとフィリピン青年アルベルトさんが旅行などをテーマにお話しているらしいのですが、私には理解できませんでした。私の aŭskulto はまだまだです。

公開シンポジウムは、内容の濃いものでしたが、もっと若い人たちに聞いてほしいなと思う企画で、この年齢の高い私達参加者には、もったいない気がしました。

Gaia Vespero

中村さんの伴奏で「花は咲く」を皆で歌いましたが、なかなかメロディと合わなくて難しかったです。「腹話術」は、人形は可愛いし、エスperantoの余りの上手な会話に感心しました。

二日目は、相川節子さんの「よく使う前置詞に慣れよう」に参加しました。まずプリントを配られその問題を各自解いてから、説明されたので分かりやすかったです。参加者の中には、ベテランの人が数人おられてその人たちの質問や相川さんの会話（日本語）が面白かったです。

公開番組 朗読劇「戦時下反戦放送・エスperantoリスト長谷川テルの生涯と遺児暁子」

は、改めて感動致しました。現代の日本、中国、の指導者、若者に見てほしい、世界に発信したいもっと知られて欲しいと思う内容でした。劇団の人たちを応援したいです。

公開講演会は【ザメンホフの国際語思想とアドラーの共同体感覚】というテーマで、早稲田大学の向後千春先生の講演です。向後先生は、どうやら若い方たちには人気のある先生のように、本も出版されています。アルフレッド アドラーの名も私は初めて耳にしましたが、今見直されている哲学者だそうです。ザメンホフより少し後に生まれた、ほぼ同時代の人でユダヤ人だそうです。私は先生の本で、子ども対象に漫画

にした本もあるそうなので、それを買って読みたいと思っています。

残念ながら閉会式には、申し訳ないと思いつつ出席しませんでした。

今年もいろいろな出会いがありました。エスペランチストと言う絆を、大事にしたいと思います。最後に思うのはいつも同じ。もっと勉強しなくっちゃ！！

ロンド創立のころ（3） Daürigo de la n-ro 32

ザメンホフ祭の記録（1）

峰 芳隆

33号と34号では「私のエスペラント人生」として、「出会った外国のエスペランチストたちのこと」をお話しました。記憶に残る人たちの思い出は尽きませんが、創立当時の話に戻りたいと思います。

昨年秋、関西大会のために、『エスペラント運動を考える』として「*La Movado*選集」を編集しました。「さて、次は」と思い出したのが、15年前に約束したままになっている「KLEG50年史」。2016年は連盟の創立65年。この機会に何とかしたい、と相談したところ、「65年史でも良い」ということで、作らせてもらいました。

そのために、古い*La Movado*誌や資料を調べている中で、姫路のザメンホフ祭の記録が見つかりました。なかには、すっかり忘れていたこともありましたが、その一部を書き写しておきます。

1964年 「姫工大エス会の努力で、戦後はじめてのZ祭が、姫路市手柄山青年の家で、12月24日午後6時から25日正午にかけて開かれた。参加者12名。姫工大、姫短大の学生と古いエスペランチストの西本氏、加古川の幸村氏、それにKLEGから宮本が参加。姫路エス会を作ることについていろいろ打ち合わせをした」

この記事は、おそらく、KLEG事務局の宮本正男さんが執筆。私は、この前に姫路工大の田中豊彦さんを下宿に訪ねて相談したように思う。「西本氏」は翌年5月の創立に参加した西本勝次さん。「幸村氏」は『日本エスペラント運動人名事典』に載っている幸村恭典さん。向井孝さんの姿をまだない。姫路工大のエス研究会は、1962年か63年に田中さんによって作られたらしい。短大のロンド作りなどのその積極的な活動に対して、1964年の関西大会でKLEG賞が授与された。また、市民対象の講習会も行ったようです。創立に参加した久斗ふく子さん（31号参照）はその受講者だったようですが、記録は残っていません。

1965年 「姫路エス会主催のザメンホフ祭が12月12日手柄山青年の家で行われた。出席者は予想に反して16名と閑散であった。向井孝のmalferma paroloに始まり、大阪から来援の小西岳の歌唱指導、自己紹介、ザメンホフ演説集の朗読など。1時30分から4時すぎまで、なごやかな雰囲気だった。なお本の売り上げは16,830円。(田中)」

この「田中」は田中豊彦さん。「予想に反して」というのは、その春には会が生まれ、講習会には40人の受講者があったが……、ということでしょう。私の記録では、小西岳さんを含めて17人。会員6人、受講者6人、工大から5人。なお、田中さんは、31号に紹介した66年1月の新年会の写真に写っていますが、その春に就職したのち、姿を消してしまいました。しかし、工大では、藤井富朗さんたちが活動を続けて、68年の関西大会開催(32号)につながりました。(写真の中央に立っているのが歌唱指導の小西さん)



1966年 「12月4日午後、ザメンホフ記念集会を姫路駅前OSビル4階で、岡山(久米田氏)、大阪(宮本氏)のほか、明石、姫路工大、姫路短大からの参加があり、あわせて26人が集まった。席上、宮本氏は、〈エスペラントは平和のコトバではない〉と、およそ次のように話された。〈エスペラントを『平和のコトバ』とよぶ人があるが、これはおかしい。コトバには、もともと、平和も戦争もない。しかも、『平和のコトバ』ということばにおぼれてしまってエスペラントさえ普及すれば、世界は平和になる、エスペラントを使っておれば、平和のために働いていることになる、と錯覚し安心してしまっている人があるが、この姿勢はキケンでさえある。エスペラントをどのように平和のために役立てるか、それをつかって、どのように働くか、に問題があるのではないか〉。なお、岡山と明石からの参加者とは、ともに今後の発展のために協力しようと話した。恒例の図書即売は、46冊、11,955円の売り上げがあった」

「久米田氏」は、岡山エス会の久米田克哉さん。「宮本氏」は、宮本正男さん。明石からは3人の高校生を含めて4人。工大は1人。短大の5人が歌を歌ったことが記録にある。なお、短大のクラブは67年3月に解散した、と記憶しています（写真の前列右端は向井。2列目左から3人目から宮本、西本、久米田）。ところで、宮本さんは、のちに、*La Movado*の1970年2月号に「エスペラントは平和のコトバか？」を発表。それに対して、宮本さんの後を継いで、事務所に専従した坂本昭二さんが、1995年3月号に「『平和のコトバ』—何がいけないのか」と反論。しかし、それは宮本さんが亡くなった後のことでした。そして、この二つの論文は、『エスペラント運動を考える』に収録しました。（daŭrigota en la sekvanta numero）



峰さんの KLEG奨学金の授与賞おめでとうございます。



estimon por lia ekstrema klopodo.

Ni elkore gratulas sinjoron Mine Yositaka pro tio, ke li fariĝis la premiito de la KLEG-stipendio.

La 23an de junio, niaj Himeji membroj donacis bukodon al li. Per tio ni deziris eĉ parte esprimi nian dankon kaj

Baba tokie

加古川の「エスペラント入門コース」は4回を数えました。教材はドリル式エスペラント入門の抜粋をコピーしています。入門受講者の松浦四朗氏の紹介は次月号に掲載いたします。

学習例会の記録 Kie, kiam, kiuj kunvenis kaj kune lernis?

<姫路：イーグレ第4会議室>学習例会は午後1時半～4時

4月28日(木) 中村、大前、馬場

5月26日(木) 中村、大前、馬場、吉田、三鍋、中川、山岸

6月23日(木) 中村、吉田、馬場、三鍋、中川、山岸

CDエクスプレスと“Liza kaj Paŭlo”

土曜日の学習はしばらくおやすみ。

<加古川：生活創造文化センター>学習例会は午後1時～4時

4月23日(土) 塚本、馬場、多田、中村、松浦

5月14日(土) 塚本、馬場、多田、松浦

6月12日(日) 塚本、馬場、多田、松浦

6月26日(日) 塚本、松浦

エスペラント入門コース兼用おもに「ドリル式エスペラント入門」

<Skajpo>学習は毎週水曜日 20時～21時

4月6, 13, 20, 27日 5月4, 11, 18, 25日

6月1, 8, 15, 29日

Pri “la makulita bendo” Aventuroj de Ŝerloko Holms

今後の予定 Kie, kiam ni kunvenos?

★**姫路** (第4木曜日, 午後1時半～4時, イーグレ第4会議室)

7月28日、8月18日、9月29日、10月20日

* **月1回土曜日午後ボランティア室で学習会の予定**

★**加古川** (午後1時～4時, 生活創造文化センター「かこむ」)

エスペラント入門コース継続都度予定、第2、第4土曜日が日曜日

“「ドリル式エスペラント入門」抜粋使用

★**Skajpo** (毎週水曜日 20時～21時)

編集後記：加古川の入門コースも4回を重ねました。姫路も参加者が増えてきています。Skajpo も軌道に乗りましたが、もっと参加者がほしいです。姫路、加古川合同の何か交流企画がほしいです。ご提案を！

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

“Verda Placo” (みどりのひろば) n-ro 35 2016年7月15日

発行：はりまエスペラント会 Harima Esperanto-Societo

(671-1222 姫路市網干区宮内106-3 稲田正昭)

編編集：多田龍二 明石市西明石町5-6-2 t-ryuji@sky.plala.or.jp

